

## 私たちの街の音楽はどこから

### 第1部 約3,200年前の縄文の響き

函館市の縄文遺跡で発掘された土笛形土製品、有孔石についてなど

### 第2部 約150年前の函館に入ってきた西洋音楽

威風堂々たる音楽      ハイルコロンビア

艦上日曜礼拝賛美歌      オールドハンドレッド

ミンストレルショーの音楽から

主人は冷たい土の中

厨房生活

葬送の音楽

ヘンデル「サウル」よりデッドマーチ

先に帰国する仲間への別れの歌

はにゅうの宿

\*\*\*\*\*

出演	構成・レクチャー・独唱	徳永ふさ子
	ナレーション、縄文太鼓	石崎理
	合唱	函館メサイア合唱団
	ピッコロ、土笛	池田桂子
	ピアノ	池田みどり
	映像	小川進

### 第1部の概要

函館には多くの縄文遺跡があります。「北海道・北東北を中心とした遺跡群」としてユネスコ世界遺産の候補にもなっています。これまで発掘された縄文遺跡には、一万年もの間、戦った跡がみられないそうです。現代では争いや戦いが絶えることのない人間社会で、どうして長きにわたって争いを避けることができたのでしょうか。その答えを縄文の響きから探ってみます。

### 第2部の概要

函館開港により、函館には日本でいち早く西洋音楽が伝えられました。1854年、ペリー艦隊が伝えた音楽、1858年、日本で初めてのロシア領事館付きロシア正教会の聖歌として伝えられた混声合唱です。また明治6年にはその教会で高度な音楽教育が始められており、それは文部省音楽取調掛が西洋音楽教育を開始する6年も前のことと伝えられています。函館の西洋音楽受容の先進性には眼を見張るものがあります。

レジメ 第一部・第二部の講義及び合唱風景

